

【学生部門】

「亲情・友情・爱情」

每个人的一生，都离不开亲情、友情、爱情。我们一降生，就被浓浓的亲情包围着，爷爷、奶奶、姥姥、姥爷、爸爸、妈妈……，无私的亲情使我们慢慢长大。在幼儿园、学校和工作单位，我们又有了伙伴情、师生情、同学情、同事情。我们也总会有几位知己，给予我们纯真的友情。也许在友情中，我们还可能从异性那里收获到一份属于自己的忠贞的爱情。

我们在享受着亲情的同时，追求并拥有着友情与爱情。但同时爱情可能又出自于友情，因为和他（她）的相识、相知、相爱的过程，其实也是友情升华的过程（除非真的是一见钟情）。但我们的爱情变成了现实，走进了婚姻的生活，当我们为人父，为人母后，我们将在自己的子女身上倾注我们的亲情，让他们生活在我们给予他们的亲情之中。其实人就是这样，在这三个情中不停地轮回。朋友，如果你的生命中伴随着亲情、友情、爱情，那么，你就是幸福的人！

（第44回全日本中国語スピーチコンテスト課題文より）

[日本語訳]「家族愛、友情、異性の情愛」

それぞれの個人の一生は全て家族愛、友情、異性の情愛から離れることはできない。我々は一たびこの世に生まれれば、とても濃い家族愛に囲まれる。父、母、祖父母たち家族の無私的情愛は我々をゆっくりと成長させる。幼稚園、学校、そして職場において、我々はまた仲間との繋がり、師弟間のつながり、同級生とのつながり、同僚とのつながりなども持つようになる。更に真の友人を数名持ち、彼らが我々に純粋な友情を抱いてくれることもあるであろう。もしかしたら友情の中で、異性から自分の伴侶となる者の誠実な愛情をも得られるかもしれない。

我々は家族愛を享受しているのと同時に、友情と異性の愛情を追い求め、手に入れている。しかし、同時に異性への情愛はまた友情から出る可能性がある。なぜなら彼または彼女と出会い、相手のことを深く知り、相手のことを愛するようになる過程は、実際のところ友情が昇華する過程でもあるからだ（本当の一目ぼれ以外は）。しかし、我々の異性に対する情愛が現実のものとなって結婚生活に入り、我々が人の親になったあと、我が子に家族愛を注げば、我々が彼らに与える家族愛の中で彼らを生きていかせることになる。人とは実にそういうものであり、この三つの情愛の中を止まることなく回っているのだ。我が友人たる読者よ、もしあなたの人生の中に家族愛、友情、異性への情愛が伴っているのであれば、あなたは幸福な人だ。

【一般部門】

「律回岁暖嗅春味儿」

时序更迭，律回岁暖，冬日的清寒正一点点退去。不必等繁花满枝，不必听雷声阵阵，只在风里、光里、气息里，便已悄悄嗅出了春的味道。

风是最先知春的。不再是凛冽刺骨，而是柔柔软软，拂过脸颊时，像极了一声轻浅的问候。走在街上，阳光也温温吞吞地洒下来，不灼人，不张扬，只把人心照得敞亮、舒坦。空气里少了冬日的干燥，多了几分湿润与清新，深吸一口，便觉通体舒畅。

春味儿，藏在细微之处。枝头隐约有了新芽的萌动，泥土里透着苏醒的气息，连平日里寻常的烟火，也多了几分暖意。人间烟火，最抚人心，一碗热汤，一句闲话，一抹暖阳，都在悄悄告诉我们：冬天就要过去，生机正在归来。

律回岁暖，万物向新。不必急着奔赴盛大的春光，只需静静感受这一缕淡淡的、甜甜的、带着希望的春味儿，心便跟着温柔起来，日子也跟着明亮起来。

春已至，风渐暖，愿我们在这渐浓的春意里，心安如常，岁岁欢喜。

（第44回全日本中国語スピーチコンテスト課題文より）

[日本語訳]「季節が変わって暖かくなり、春の気配を感じる」

季節が変わり、暖かさが戻ってくると、冬の寒さは少しずつ遠ざかっていく。花々が枝を埋め尽くしたり、雷が鳴ったりするのを待つ必要はない。ただ風や光や空気の中に身を置きさえすれば、ひっそりと春の気配を感じるようになっているのだ。

風こそが最も先に春の訪れを知っている。それにはもう身を切るような鋭さはなく、ひたすら柔らかになり、頬をなでるとき、まるでこの上なく軽やかな挨拶のようだ。街を歩くと、陽光も穏やかに注いでくる。それには人の肌を焼くような強さはなく、また一帯を覆うような派手さもなく、ただ人の心を照らして明るくし、穏やかにする。空気の中では冬の乾燥は減り、いくばくかの湿り気と新鮮さが増え、一回深呼吸すれば、全身がのびやかになる心地がする。

春の気配は、細かいところに隠れている。枝には微かに新芽の芽生えがあり、土の中からは生き物たちのよみがえりの息遣いが現れ、日中のいつもの暮らしにさえいくばくかの暖かさが增える。人の日常の暮らしは最も人の心を癒すが、一杯の熱いスープや何気ないおしゃべり、一筋のあたたかな陽光、全てがひそかに我々に告げるのだ。冬はもうすぐ去り、生命の息吹が戻ってくると。

暖かさが戻ってくると、万物が再生へと向かう。急いで春の盛りの光のもとに駆け出す必要はない。ただ静かにこの一筋の淡くて甘美で、希望を帯びた春の気配を感じるだけでよい。それに従って心は優しくなり、暮らしも明るくなっていく。

春が既に来て、風がだんだんと暖かくなってきた。この少しずつ濃くなる春の気配の中に身を置き、心がいつもと変わらず安らかになり、毎年楽しくなって欲しいものだ。